

御親化授戒会のご案内

来たる11月5〜6日(土・日)の二日間、實相寺に妙心寺派管長小倉宗俊老大師が来られ、四国東教区主催の御親化授戒会が開催されます。

實相寺には、11月6日(日)に15名の参加枠が割り当てられています。コロナ対策のため、募集人数を制限してありますが、管長猥下から直接戒名を授かることが出来る、この貴重な機会に是非ともご参加下さいませ。謹んでご案内申し上げます。

また当日ご参加頂けない場合でも、管長猥下が導師をされる総供養のお申し込みは可能です。どちらも棚経時に申込用紙を配布します。申し込み必切は8月末日(戒徒は定員に成り次第)です。よろしく願います。

茶室屋根の雨漏り修理について

5月号で第一報をお伝えしましたが、その後約百万円の修理費用が掛かることが判明し、JA共済より査定の結果、共済金約七十万円が支払われました。ついては去る7月31日の境内清掃後に臨時役員会を開催し、協議の結果、不足分約三十万円については、護持積立金より支出する事が決定しました。ご理解の程、宜しく願います。



實相寺花園會報

令和四年 八月一日発行
発行所 臨濟宗妙心寺派 陽明山 實相寺 實相寺花園會
〒761-0450 高松市三谷町 1811番地1
TEL.087-889-3838
編集発行人 山本文匡
<https://www.jissouji.net>

第160号

お寺の掲示板

漢文が中心の禅界にあつて、曹洞宗の道元禪師は多くの日本語による教えを残されていて、この道歌もそうしたものの一つです。

中国の詩人、蘇東坡に
「溪聲便是れ廣長舌」
けいせいすなわこ こ こうちようぜつ

山色豈に清淨身に非ざらんや」という句がありますが、この歌はそれを踏まえたものです。

山間の溪谷だけでなく、うだるような街中の蝉時雨もまた、仏心真つ只中の風光なのです。

峰の色

谷の響も

皆ながらう

吾が釈迦牟尼の

声と姿と

道元禪師

御親化授戒会について

香川県でも連日多くのコロナ感染者数が報告されていますが、皆様お変わりありませんでしょうか？現在急速に感染が拡大していますが、これまでを省みると11月頃には落ち着きを取り戻している可能性も高いと考えます。

勿論、直前の状況によつては延期もあり得ますが、本来は令和二年十一月に開催する予定でした。既に二度延期していることもあり、今年五月の教区会議で参加人数を半数に減らし、十分なコロナ対策を実施して開催することに成りました。会所に選ばれるものもなかなか光栄なことですので、住職としては皆様のご理解とご協力、ご参加を心よりお願い申し上げます。

さて、あまり聞き慣れない言葉です

ので、少し御親化授戒会についてご説明します。

よく「戒名」というと亡くなった後に付けられる名前と思われていますが、本来はそうではありません。仏教徒として正式に戒律を授かるときに頂く名前が戒名です。つまり授戒会とは、「戒」を受けることによつて「戒名」を授かる儀式で、臨済宗では最も大切な儀式とされます。

有名な鑑真和尚が命懸けで日本に連れて来たのは何故か？それは戒律を授けるためでした。仏教では受戒する際、通常十人の正式な僧侶が立ち会うことが定められています。しかし当時の日本には戒を授けられる僧がいませんでした。受戒する為には、わざわざ唐に渡る必要があったのです。

そこで朝廷は「正式な僧を十人派遣して欲しい」と唐に使者を送ったところ、当時、戒律の第一人者であった鑑真和尚が弟子と共に来朝することになったのです。五度の失敗で両目を失明しながら、天平勝宝五年（七五三）十

二月ようやく屋久島に到着し、その後、奈良の東大寺で聖武天皇や孝謙天皇に授戒しました。

現在の妙心寺では年に一度授戒会が行われていますが、これは僧侶となる人が対象であり、一般向けではありません。

一般檀信徒を対象とした授戒会は、管長猥下が各教区に赴き、親しく教化する御親化授戒会が年に五ヶ所ほどで行われています。全国に二十七教区あるので普通は五ヶ六年に一度開催され

ますが、四国東教区では平成十年頃に徳島で行われて以来、長らく開催されていませんでした。前々回が松山でしたので、今回は香川ということでお寶相寺が選ばれた次第です。

十一月六日の当日は、朝九時から午後五時頃まで、丸一日の行事となります。その間に管長猥下のお話を聞いた後、本山教学部長や花園会本部長のご指導で加行礼拝といって、仏様に懺悔して礼拝する修行をして頂きますが、椅子席ですので身体への負担は少ないと思います。その後、お一人ずつ管長猥下の元へ登壇して、直接お釈迦様から伝わる血脈と安名（二字戒名）を授かることとなります。大変貴重な機会ですので、是非ご参加下さい。お問い合わせは五ヶ六年に一度開催され